



【短歌】

広報委員会 選

◆一般投稿作品◆

今年また皇帝ダリア咲きにけり亡妻の愛した天天たる華
ロッジよりお湯がわいたの機械音テレビなしの瓶が森山頂
細く永く農婦たりしよ岸豆の花に翹たたむ蝶にかも似て
医師だとしてちつとはいいかとノンアルを飲んでみたら痛風痛し
川の音や山の音聞いた彼岸日は昔の良き日賑やかな茶の間
懐に木陰の風を入れながら草刈りをする梅雨明けの日々
温暖化台風進路定まらず日本中をかきまわしたる
我が里は限界集落君の里絶滅道を塞ぐ倒木
庭の木に静かにして鳥がえさ運ぶほんにかわいいね
オロナミン力を借りてホース修理水たつぷりと掛け大草を引く
アリ一匹菓子のかぼれをかつぎ行く急ぎ通路の戸を開けてやる
木守り柿いつもの枝のてっぺんにいつものヒヨへまたおすそ分け

◆とさやまだファミリア◆

夕焼けて蜻蛉寝座は稲穂かな夜露に濡れてそんな夢見む
ありがとういろはにほへと口ずさむ気持ち落ち着き安らぎおぼゆ
寝たきりなり窓辺に見ゆる秋月を両手でつかみ取っておきたい

◆高知アララギ短歌会◆

斑猫だよの声蘇る池の径ともにめぐりし杳きとほき日
この頃は小さな傷も染みとなり消えることなし薄れることなし
夫の葬に牛の形の抱き枕棺の上で見守りており

佐竹 玲子
佐々木真里
小松 當

山三つ抱きて二重の虹の立つ葉月の空に平和を祈る
「ただ側に居てくれるだけでいいのよ」と友の言葉を噛みしめている
簾とふ漢字の一部を確かめむ蔵ひしはずのルーペを探す

◆蕪生短歌会◆

明日壊すとふがらんどうの友の家月ひつそりといらかを照らす
近隣の秋の実りを見て歩く色付き初めし稲穂のゆるる
聞え来る笛の音色は日を増して確かとなりぬ宿題なるや
九十二歳月に二回のフラダンス痴呆予防に役立ちており
軒先に吊せる竿に黄トンボの止まりては飛び止まりては飛ぶ

◆「清光」グループ◆

地図の向き縦にしてまた横にして歩き遍路は信号を待つ
公園の手慣れし作業いっせいに立ちくる香り清し刈りあと
孫五人分け隔てなくいとおしく待ち受け画面の変更忙し
真つ直ぐな言葉は時に強すぎて防御の言葉さがし始める
父の手の爪を切りつつ思い出の父の手のひら大きかったと
染みはなく髪黒ぐると夫は喜寿料理作りて吾をよるこぼす
みち草の思ひになめし筆の味吾が未熟さに励まむ日々を
友人達と輪島への旅も遠き日よ手許に残る紅色のお盆
庭隅の今朝の蛙の鳴き声は梅雨入り知りし安堵の声か
妹も呼んで家族で祝い事重なりごちそう皆で黙々
門前に托鉢僧のごとく猫きつとお腹を空かしているやも

俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載を希望される方は、
掲載月の前月1日までに「応募ください」。
【投稿先】香美市役所総務課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係
〒782-8501（住所記載不要）FAX 53-5958

第18回香美・香南地区短詩型文学振興大会

短歌の部

特選 地球より重いとわれし命なれど 戦下の子供は露の如くに 小松 當
優秀 背柱の異変告げられ久しきも 撫でつさすりつまだ農婦たり 大岸由起子
優秀 拉致されし四十四年の歳月に 暮る思ひをふりしぼる母 中村 定子
佳作 幼日に伴はれ来し薫的の 神社に孫と合格祈願 古川 安子
佳作 齢ぞと痛む肩撫で脚を撫で 早逝の夫をしみじみと憶ふ 竹村 咲子
佳作 さんざめく星に願うは今年こそ 地球の安寧七夕の夜 吉永 由香
佳作 妻の遺影はほえむ前に一人飲む 敬老の日の懺悔のビール 山中 逸朗
高ポイント賞 車椅子押して押さるる老老の 齢の数ほどバラの花咲く 宮崎 侃

俳句の部

特選 改札をビツとスマホと行く秋と 山崎 鈴子
優秀 病んだ夜はキリコの街の夢紡ぐ 井上 育子
優秀 風死してここに印鑑お願いします 財前 香花
佳作 ふるさとのどすんと白き雲の峰 津田吾燈人
佳作 老老介護そと寄り添ふ涼み台 古川 信子
佳作 優しい嘘はピアノのフォルテ風薫る 山岡 秀美
佳作 無所属の男が二人冷素麺 影山 公子
高ポイント賞 灯を消して一点赤し蚊遣の火 乾 真紀子
高ポイント賞 一人居の来客となる夏燕 大崎 勝子



香美市民憲章

—平成24年4月1日制定—



前文 私たちの香美市は、美しく、豊かな自然に育まれています。
先人が築き上げた尊い文化や伝統を受け継ぎ、人々が愛と勇気を心に持ち、
誰もが幸せを感じられるまちを目指し、ここに市民憲章を定めます。

本文 1、豊かな自然を守り、美しいふるさとを未来に届けましょう。
1、互いに思いやり、ささえあう、心安らぐまちにしましょう。
1、歴史に学び、伝統を守り、高め、文化の香りあふれるまちにしましょう。
1、子どもたちの笑い声は宝物、みんなで見守り育てましょう。
1、感謝の気持ちを大切に、元気で働き、仲よく住みよいまちにしましょう。

